

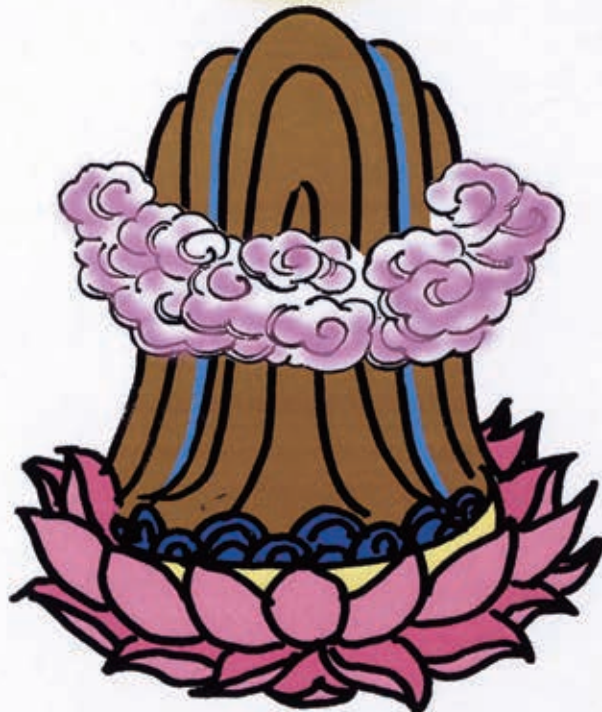
にしかなさやま 西金砂山のおはなし

常陸大宮市と西金砂山

今日、みんなが行く西金砂山は、常陸太田市とさかいにあります。山のまわりの4つの地区、上宮河内・下宮河内・赤土・諸沢の人々（氏子）が、山の頂上にある西金砂神社を、自分たちを守ってくれる神社として大切にし、お祭りを行っています。これらの地区のうち、「三太の湯」がある諸沢は、常陸大宮市。だから、西金砂山や西金砂神社はわたしたちにとっても大切な山、大切な神社のひとつです。

西金砂山は特別なところ

切り立った高い岩山の西金砂山は、むかしから神様や仏様が住む特別な山と考えられてきました。こんなけわしい山の上に、千年も前から、神社やお寺が建てられたのもそのためです。金砂山で雷が鳴ると、常陸国（今の茨城県の大部分）全体に雨がふると言われており、水の神様、つまり、作物をゆたかにしてくださる神様として、氏子以外の広い地域の人々もたくさんお参りしました。久慈川の支流、諸沢川や浅川も西金砂山から流れ出ています。



西金砂山のイメージ

「蓮の花の上に、水のみなもとがある高い岩山があり、山の上に千手観音が住んでいる、聖なる山」と考えられていたんじゃないかなあ。

山の上にはお城もあった

常陸太田市や常陸大宮市のあたりは、平安時代の終わりごろから、佐竹を名乗る武士が治めていました。西金砂山は登るのがたいへんな山です。ですからここに、佐竹氏は敵に攻められた時に逃げ込むためのお城を作っていました。鎌倉幕府を開いた源頼朝は、同じ源氏なのに平氏討伐に味方しなかった佐竹氏を攻めるため、西金砂山まで来ています。諸沢からの登り口を聞き出して、やっと佐竹氏を攻めたそうです。

大祭礼と小祭礼

西金砂神社では、毎年、作物の豊作を願う十二合祭という真夜中のお祭りが行われています。そのほかに、6年ごとに百人以上の行列が常陸太田市馬場町まで行く小祭礼と、72年（?!）ごとに数百人の行列が日立市水木浜まで行く大祭礼があって、全国的に有名です。神社の伝えによると、大・小祭礼は、平安時代の初期、今から1200年ほど前に始まった、とても歴史あるお祭りです。前回の大祭礼は15年前に行われ、次は2075年の予定です。小祭礼は丑年と未年に行われていて、未年にあたる平成27年は3月26日からの4日間、199回目のお祭りが行われます。